



◆本日の流れ◆

- 13:30-14:30: 趣旨説明(西岡)
教科等別分科会 担当者紹介
- 14:45-16:45: 教科等別分科会
 - 資料配付、参加者自己紹介 → グループ分け
 - 教科等別分科会 担当者からのプレゼン
 - 1)新学習指導要領における主な変更点
(「資質・能力」の3つの柱と当該教科の関係)
 - 2)当該教科における「本質的な問い」「永続的理
 - (当該教科の「見方・考え方」)
 - 3)パフォーマンス課題の実践例
 - グループでの作業 → 模造紙に議論の整理
 - 各グループで、司会、計時係、記録係、報告係を決めてください。
 - 1日目(分科会A) 参加者については、作成した課題を紹介ください。
 - 分科会全体での報告とまとめ
 - 講師の先生方: 後日、「議論のまとめ」をご提出ください。
- 16:45-17:00: (各分科会で)クロージング

1. E.FORUMとは何か

(1)会則 第2条「目的」

○ 本会は、広く教育に関心を持っている人々が集まり、教育をめぐる事柄について共に語り合うことによって、お互いの教育力量を向上させることを目的としています。本会は、学ぶ喜びを感じ、賢明に判断し行動できる子どもたちの育成に役立つことを目指します。

(2)活動

○ 研修、実践交流、セミナー等の提供
→教師の力量向上ネットワーク

○ 共同研究開発ネットワーク
→第1弾:プロジェクトS「スタンダード作り」

(3) E.FORUM ONLINE

→データベースと掲示版

E-Forum Online@京大教育

公開ユニットの検索

ユニット番号を指定して探す
unit: 検索

検索条件を組み合わせて探す
• ユニット名に含む文字列:
• アクセス: 可でない
• 教科・科目等: 社会
• 対象学年: 中学校:英語学年
• キーワード: 可でない
• 表示の並び順: 更新日(新しい順) ユニットID(降順) ユニットID(昇順) 作成者順
• 一度に表示する件数: 20件
検索

20件

unit	作成者	ユニット名	アカウント	登録日付	対象学年	キーワード	操作
299	かんななななななな	CDDB 中学校社会科	中田	2013-08-16	中1 / 中2 / 中3	世界地理 / 日本国情 / 日本地理 / 日本文化 / 球体 / 行政 / 地政 / 地理 / 地理の知識	削除

2. プロジェクトS「スタンダード作り」

(1)スタンダードとは何か?

○ 社会的に共通理解された目標・評価基準
(観点と水準) **※参考資料として作成**

学習指導要領
国家
中間の公共性
学校現場
子ども・青年の実態
先生方の願い
諸外国のスタンダード
日本における研究の蓄積

(2)「E.FORUMスタンダード(第1次案)」の開発プロセス

- ① 『「スタンダード作り」基礎資料集』の作成
2010年8月
- ② 2010年度フェスタでのシンポ
「スタンダード開発の可能性と課題」
→算数・数学、国語、英語
- ③ 2011年度フェスタでのシンポ
「活用すべき基礎・基本とは何か?」
各教科等のスタンダードを探る
→社会、理科、芸術・実技系教科、総合
- ④ 2012年度フェスタでの教科等別分科会
- ⑤ 2013年度フェスタでの教科等別分科会
- ⑥ 『「スタンダード作り」成果報告書』2014年3月

(2)「E.FORUMスタンダード(第1次案)」

○各教科について…

- ・包括的な「本質的な問い」
- ・「永続的理解」
- ・パフォーマンス課題

○学校現場での使いやすさを重視

←現行の学習指導要領や指導要録の観点を前提として作成

7

(3)「E.FORUMスタンダード(第1次案)」

(<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>)

(4)「E.FORUMスタンダード(第2次案)」

◎政策動向

- 2017年3月: 小・中学校の学習指導要領改訂
- 2017年度?: 高等学校の学習指導要領改訂?

◎E.FORUMの取り組み

- 2017年8月: 『「スタンダード作り」基礎資料集(第2集)』
←2016年8月より寄稿を募集。
- 2017年8月: シンポジウム&教科等別分科会
- 2017年度中に: 「E.FORUMスタンダード(第2次案)」を完成予定。 →小・中の分は出版予定

8

3. パフォーマンス課題とは何か

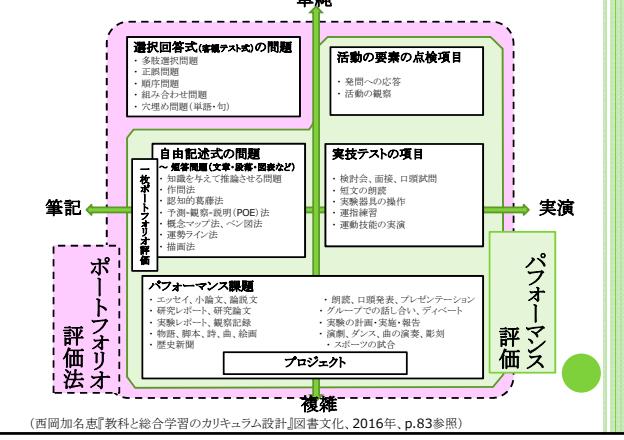
(1) パフォーマンス評価とは…

- 知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)
←学力観の転換

(2) パフォーマンス課題とは…

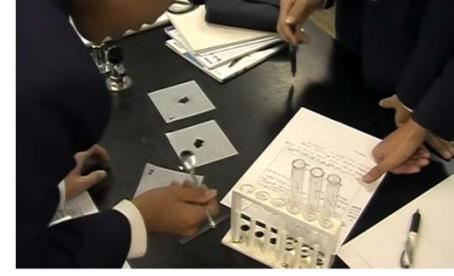
- 様々な**知識やスキルを**総合して**使いこなすことを求めるような、**複雑な**課題。
- 具体的には、論説文やレポート、展示物といった**完成作品(プロダクト)**や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった**実演(狭義のパフォーマンス)**を評価する課題。

(3) 学力評価の方法



(4) 日本におけるパフォーマンス課題の実践例

①中学校・理科「黒い粉の正体——実験報告書」



(井上典子先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする理科』日本標準、2010年、p.186)

12

②高等学校・英語科

※動画：京都大学オープンコースウェアに掲載
(西岡「教育課程論Ⅱ」2014年10月23日)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9234001>

国際文化コースの1人の生徒の変化
→普通科旧Ⅰ類の2年次よりの選択コース。

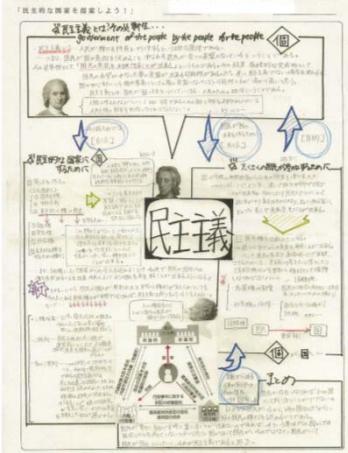


13

(京都府立東舞鶴高等学校 大槻裕代先生提供)

③中学校・社会科 「民主的な国家を提案しよう！」

「民主的な国家を提案しよう！」



(三藤あさみ「検討会で関連づけて思考する力を育成する」西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年)

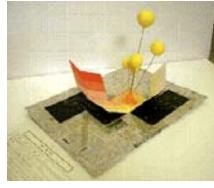
④中学校・美術科

「『真の自分』を発見し、表そう」

(福岡教育大学附属福岡中学校
武田巨史先生)



題名「Don't Know At All」



15

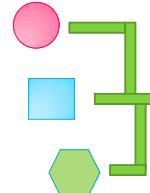
(西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年、p.97)

←題名「私」

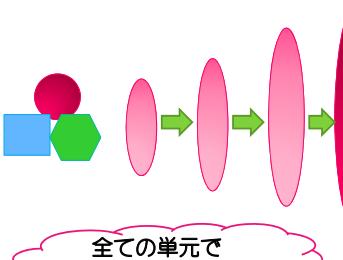
↑題名「閉ざされた心」

(4)パフォーマンス課題の位置づけ方 ◎単元内・単元間の構造

パート組み立て型



繰り返し型



16

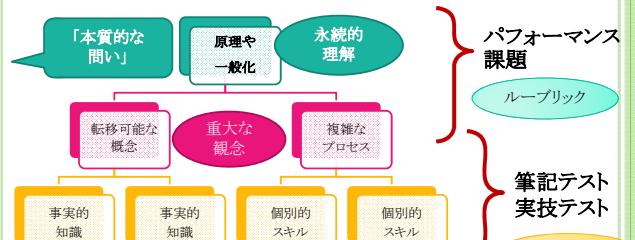
4. パフォーマンス課題の作り方

(1)単元設計テンプレート ←「逆向き設計」論



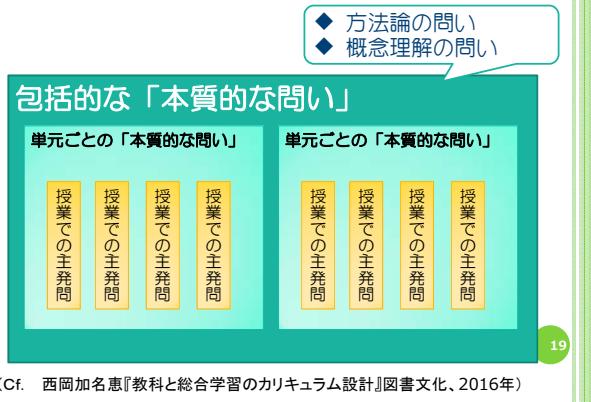
(Cf. G・ウイギンズ／J・マクタイ、西岡加名恵著『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年)

(2)「知の構造」と評価方法・評価基準



(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計——パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016年、p.82; McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65の図や、Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図をもとに作成。G・ウイギンズ／J・マクタイ、西岡加名恵著『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年も参考)

(3)「本質的な問い合わせ」 ◎「問い合わせ」の入れ子構造



■「本質的な問い合わせ」の特徴

- 単純な一つの答えがない
(論争的、探究を触発、様々な深まり)
 - 個々の知識やスキルが総合されていくような問い合わせ
 - 様々な文脈で活用できるような問い合わせ(転移)
 - 単元を越えて繰り返し現れるような問い合わせ
(再考を促す、転移、カリキュラムの系統性)
 - 「だから何なのか?」が見えてくるような問い合わせ(学問の中核、生活との関連性など)
- ※「どのように~すればよいのか?」
※「~とは何か?」

(4)「永続的理解」を明文化する

- 「永続的理解(原理・一般化)」は必ず完全な文(「~は、~である。」)として書く。
×「明治維新の原因がわかる。」
- 「明治維新という政治改革は、欧米における市民革命、産業革命とアジアへの進出からの影響、貨幣経済発展を想定していない幕藩体制や年貢制度の矛盾など、国内外の様々な政治的・経済的・文化的な要因が絡まりあって起こった。」
×「速く泳ぐことができる。」
- 「速く泳ぐためには、引っ張って、押す水の量を最大にするため、手のひらを平らにして泳ぐことが大切である。」

(5)パフォーマンス課題のシナリオを作る ◎シナリオ作りの6要素(GRASPS)

- なー何が目的(Goal)か?
 - やーー(学習者が担う)役割(Role)は何か?
 - だーー誰が相手(Audience)か?
 - アア
 - そー想定されている状況(Situation)は?
 - うー一生み出すべき完成作品・パフォーマンス(Product, Performance)は?
 - かー(評価の)観点(Standard, criteria)は?
- ※必ずしも使わなくてもOKです。

(西岡加名恵編著『逆向き設計』で確かな学力を保障する』明治図書、2008年。西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年)

<参考>京都大学のオープン・コースウェア →教育学部→教育課程論 I・II

●教育課程論 I, 2014
「パフォーマンス評価とポートフォリオ評価法」
●教育課程論 II, 2013
「学力評価とカリキュラム設計」

1.教育評価の基本用語
2.目標と評価方法の対応
——パフォーマンス評価とは何か
3.パフォーマンス課題の例
4.パフォーマンス評価の普及
5.パフォーマンス課題を作る
6.ループリック作りから指導の改善へ
7.高等学校の実践例
8.学力評価計画の立て方
9.看護教育におけるパフォーマンス課題
10.ポートフォリオ評価法
課題B パフォーマンス課題を作る
課題C 学力評価計画を作成する
課題D ポートフォリオを設計する

I : <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/14-9233001>
II : <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9234001>

5.「E.FORUMスタンダード」改訂に向けての課題

●未作成の学校段階、教科等

- 小学校の生活科、図工
- 高校: 保健体育、家庭、英語 以外
- 教師教育に関しても、開発する可能性あり?

●各教科について…

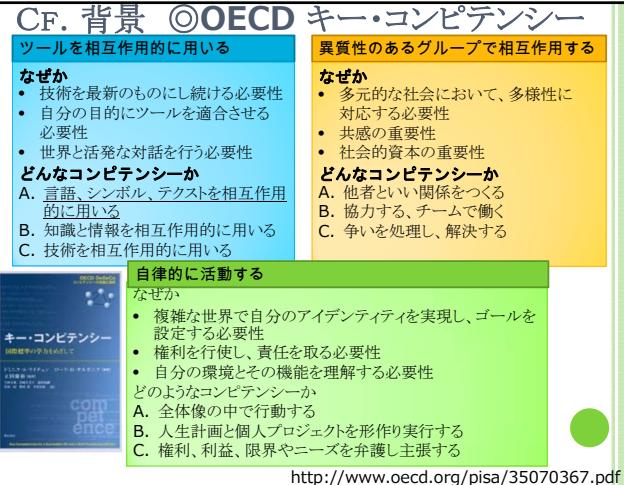
←改訂版の学習指導要領に対応
(さらには、その課題を乗り越える提案を!)

●カリキュラム横断、領域間の相互環流など?

24

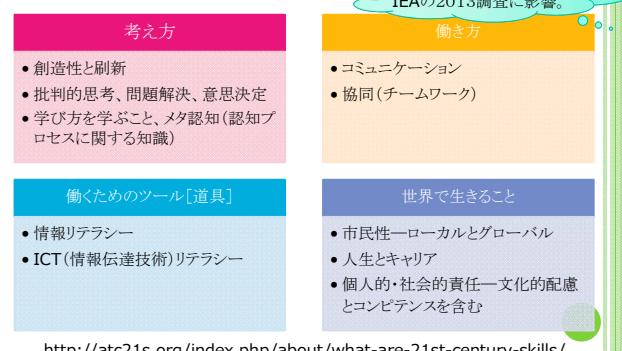
6. 学習指導要領改訂のキーワード

(1)「資質・能力」重視の方針



◎21世紀型スキルの評価と指導(ATC21S)

(ASSESSMENT & TEACHING OF 21ST CENTURY SKILLS,
CISCO/INTEL/MICROSOFT)



※意義

◎ポスト近代社会

○経済の側面

- グローバル化、知識基盤社会、ICTの革新
- 工業経済から知識経済への転換

○市民生活の側面

- 国家のゆらぎ
地域コミュニティの再構築の重要性
- リスクへの対応(専門家の間でも意見が分かれる)

(石井英真『今求められる学力と学びとは』日本標準、2015年)

※社会を生きていく上で必要な力を育成する可能性

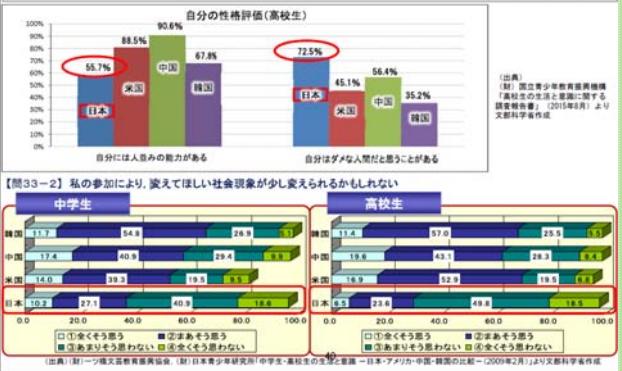
◎学習科学・認知科学の知見

○構成主義的な学習観、深い理解、メタ認知の重要性
(米国学術研究推進会議編著、森敏昭他訳『授業を変える』北大路書房、2002年、原著は2000年)

※学力保障・学力向上につながる可能性

生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識

◆米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は、「自分には人並みの能力がある」という自尊心を持っている割合が低く、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。



(中央教育審議会 教育課程部会 教育課程企画特別部会(第7期)「次期学習指導要領改訂に向けたこれまでの審議のまとめ(案案)」2016年8月1日)

社会参画等に関する若者の意識(投票率の低下)

◆直近の衆議院議員選挙における年代別投票率(20歳代の投票率(32.58%)は、60歳代の投票率(68.28%)の半分以下。



(中央教育審議会 教育課程部会 教育課程企画特別部会(第7期)「次期学習指導要領改訂に向けたこれまでの審議のまとめ(案案)」2016年8月1日)

※「資質・能力」論への疑問

- 誰の、どんな要求を反映しているものなのか？
財界のための人材養成？！
 - 誰にも平等に育成することが構想されているのか？ 全員に保障されるのか？
→社会的な再生産を助長する？
 - どこまでを育成することが学校の役割なのか？
→内面の自由が侵害される？
 - どのように育成するのか？
→教科内容が抜ける？

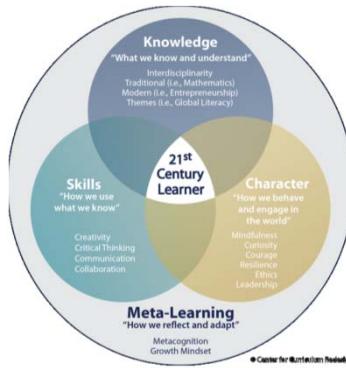
（本田由紀『多元化する「能力」と日本社会——ハイパー・メリクライシ化のなかで』NTT出版、2005年。松下佳代「<新しい能力>概念と教育——その背景と系譜」同編著「<新しい能力>は教育を変えるか——学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房、2010年）

(2) 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- 子供たちは、各教科等における習得・活用・探究という学びの過程において、各教科等で習得した概念(知識)を活用したり、身に付けた思考力を發揮させたりしながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考え方を形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考え方を基に創造したりすることに向かう。こうした学びを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていく。
 - その過程においては、“どのような視点で物事を捉え、どのように考え方で思考していくのか”という、物事を捉える視点や考え方も鍛えられていく。……
 - こうした各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方方が「見方・考え方」であり、各教科等の学習の中で働くだけではなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするものとなる。……

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

CF.カリキュラム・リデザイン・センター(CCR) の枠組み



(C. ファデル他著、岸学監訳『21世紀の学習者と教育の4つの次元——知識、スキル、人間性、そしてメタ学習』北大路書房、2016年。原著は、2015年)

◎「検討会」の論点整理

②育成すべき資質・能力に対応した教育目標・内容について

- ・現在の学習指導要領に定められている各教科等の教育目標・内容を以下の三つの視点で分析した上で、学習指導要領の構造の中で適切に位置付け直したり、その意義を明確に示したりすることについて検討すべき。ア)～ウ)については、相互のつながりを意識しつつ扱うことが重要。
 - ア)教科等を横断する汎用的なスキル(コンピテンシー)等に関わるもの
①汎用的なスキル等としては、例えば、問題解決、論理的思考、コミュニケーション、意欲など
②メタ認知(自己調整や内省、批判的思考等を可能にするもの)
 - イ)教科等の本質に関わるもの(教科等ならではの見方・考え方など)
例:「エネルギーとは何か。電気とは何か、どのような性質を持っているのか」のような教科等の本質に関わる問い合わせるためのもの/見方・考え方・処理や表現の方法など
 - ウ)教科等に固有の知識や個別スキルに関するもの
例:「乾電池」についての知識、「検流計」の使い方

(「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に
関する検討会—論点整理—【主なポイント】」2014年3月31日)

図. 学校で育てる能力の階層性(質的レベル)を捉える枠組み(出典:石井英真『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』日本標準、2015年)

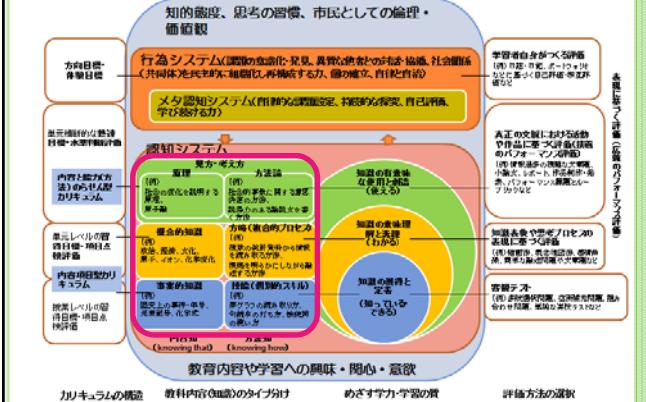


表. 学校で育成する資質・能力の要素の全体像を捉える枠組み(出典:石井英真『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』日本標準、2015年。)

資質・能力の要素（目標の柱）					
能力・学習活動の階層レベル（カリキュラムの構造）	知識	スキル	社会的スキル	情意（関心・意欲・態度・人格特性）	
発達する心の豊かな心の豊かさ	<p>知識の獲得と定着（知つている・できること）</p> <p>知識の意味理解と洗練（わかる）</p> <p>知識の有用性と使用（使う）</p> <p>自律的な問題設定と探求（メタ認知システム）</p>	<p>専門的知識、技術（個別的スキル）</p> <p>概念的知識、方略（総合的プロセス）</p> <p>知識の構成と発展（領域の複合体）</p>	<p>記憶と再生、機械的実行と自動化</p> <p>解釈、関連付け、構造化、比較・分類、帰納的・演绎的推論</p> <p>問題の解決、見識決定、実践的推論を経て評議・調査、知やモノの創造（批判的思考や創造的思考が深く関わる）</p> <p>自律的な問題設定、持続的な探求、情報収集、処理、自己評価</p>	<p>学び合い、知識の共同構築</p> <p>プロジェクトベースの学習（コミュニケーション）と協働</p>	<p>達成による自己効力感</p> <p>内容の価値に即した内発的動機、教科への関心・意欲</p> <p>活動的社会的リレインスに即した内発的動機、教科観、教科学習観（知的属性・態度）</p> <p>自己の悪い・生活欲（個別性）に根差した内発的動機、志やキャリア意識の形成、</p>
持続的・多様な学びの実現	社会関係の自己治的組織化（行為システム）	人と人との関わりと人を共有する共同体・文化についての意識、共同体の運営や自治にに関する方法論	生活問題の解決、イベント・企画の立案、社会問題の解決への関与・参画	<p>人間関係と交わり（チームワーク）、ルールと分権、リーダーシップとマネジメント、争いの処理・合意形成、半ばの場や共同体の自主的組織化と構成</p>	<p>社会的責任や倫理意識に根差した社会的動機、道徳的価値観・立憲性の確立</p>

(5) 学習評価の充実

○資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。さらには、総括的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、子供たちの資質・能力がどのように伸びているかを、例えば、日々の記録やポートフォリオなどを通じて、子供たち自身が把握できるようにしていくことも考えられる。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

◎観点別学習状況の評価

観点別学習状況の評価について

- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして検定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。
→きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

学力の3つの要素と評価の観点との整理

【現行】

学習評価の4観点

- 関心・意欲・態度
- 思考・判断・表現
- 技能
- 知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

学力の3要素 (学校教育法) (学習指導要領)

- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個人に応じた指導の充実を図ること。学校における教育活動を振興として改善することを重要。



(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

○ 学習指導要領改訂を受けて作成される、学習評価の工夫改善に関する参考資料についても、詳細な基準ではなく、資質・能力を基に再整理された学習指導要領を手掛かりに、教員が評価規準を作成し見取っていくために必要な手順を示すものとなることが望ましい。そうした参考資料の中で、各教科等における学びの過程と評価の場面との関係性も明確にできるよう工夫することや、複数の観点を一括して見取ることも考えられることなどが示されることが求められる。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

◎学力評価計画の立て方: “三次元モデル”

観点	評価方法	単元1	単元2	…	単元n	総括的評価
主体的に学習に取り組む態度						類似の課題を少しずつレベルアップしながら繰り返し与える。
思考力・判断力・表現力	パ課題		○	○		到達レベル(質)
知識・技能	筆記／実技テスト	○	○	○	○	到達レベル(量)

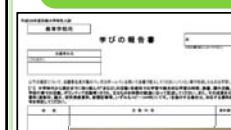
ループリック
チェックリスト

◎高大接続システム改革会議「最終報告」(2016年3月31日)

ア 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の結果	①知識・技能
イ 自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法	②思考力・判断力・表現力
ウ 高校時代の学習・活動歴	※①を基盤にして答が一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力
・調査書 ・活動報告書(個人の多様な活動、部活動、ボランティア活動、生徒会活動等) ・各種大会や頒彰等の記録 ・資格・検定試験の結果 ・推薦書等	③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
エ エッセイ	
オ 大学入学希望理由書、学修計画書	
カ 面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション	

CF. 京都大学教育学部の特色入試

＜第1次選考＞書類選考「学びの報告書」「学びの設計書」など



＜第2次選考＞課題と口頭試問

◎2016年度入試「課題」

- 近年の日本においては、青少年の規範意識やモラルの低下を理由に、道徳教育の強化を求める声が聞かれる。青少年に関する資料(資料集掲載の資料1～資料6)を用いながら、以下の問い合わせに答えなさい。

(http://www.nyusi.gakus ei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/past_issues/)



(6)「カリキュラム・マネジメント」の重要性

- 第二是、各学校における「カリキュラム・マネジメント」の確立である。改めて言うまでもなく、教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画であり、その編成主体は各学校である。各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくことが求められる。これが、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」である。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

◎カリキュラム・マネジメントの3側面

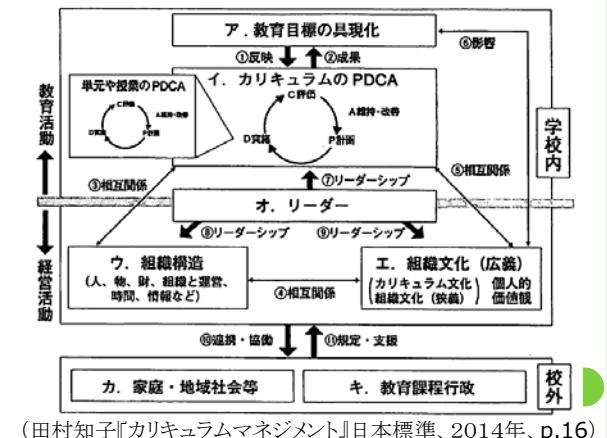
- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDC Aサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)

◎学術的な定義： カリキュラム・マネジメント

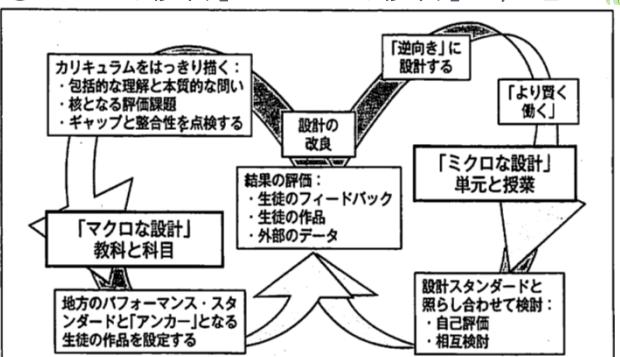
- 「各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な、課題解決の営み」(田村知子編著『実践・カリキュラムマネジメント』ぎょうせい、2011年、p.2)
 - 「カリキュラムを主たる手段として、学校の課題を解決し、教育目標を達成していく営み」(田村知子『カリキュラムマネジメント——学力向上へのアクションプラン』日本標準、2014年、p.12)
- Cf. 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年

◎カリキュラムマネジメント・モデル図



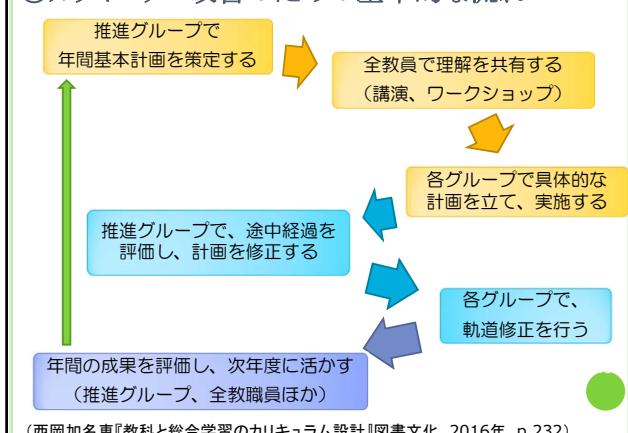
(田村知子『カリキュラムマネジメント』日本標準、2014年、p.16)

◎「ミクロな設計」と「マクロな設計」の往還



(Wiggins, G. & McTighe, J. *Understanding by Design: Overview 2002*, PowerPoint Slides, 2002. 西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.146)

◎カリキュラム改善のための基本的な流れ



(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年、p.232)